刊行にあたって

西尾 寛治　防衛大学校

もとより「公正」や「正義」は、広く人類社会一般に認められる普遍的概念である。このような社会的秩序にかかわる概念は、平常時から人々に強く意識されているわけではない。ところが、何らかの要因で社会の秩序が揺らぎ、その揺らぎが一定の水準を越えるほど大きなものになってくると、人々はそれを危機として認識する。そして、あるべき社会秩序に対する思いを強くする。その思いは、しばしば社会の変革を志向する運動となって顕在化する。すなわち、「公正」や「正義」とは、「健康」や「福祉」についての意識がそうであるように、まさに喪失されつつある状況に至り、ある種の危機感をともなって人々の意識にのぼり、その回復へと人々を駆り立てるものといえよう。

マレーシア、インドネシアをはじめとする東南アジアのマレー（ムラユ）世界で、近世のイスラーム受容以降、「公正」や「正義」という概念は“アディル”（adil）というアラビア語起源の語を用いて表現された。“アディル”は、イスラームの王国統治論の訳書『タジュ・ウス・サラティン』（または『タジュ・アル・サラティン』）で論じられ、また『スジャラ・ムラユ』などのマレー語歴史叙述作品でも言及された。さらに、マレー語のことわざ――“アディルなラジャ（支配者）は崇拝されるラジャ、ザリム（不正／暴虐）なラジャは敵対されるラジャ”――でも言及された。また、19世紀のジャワでは、“ラトゥ・アディル”という救世主観念が構築された。以上の事例は、イスラーム受容以降、在地社会において「公正／正義」に対する意識が高まったことを示唆している。

近年のマレーシア、インドネシアでは、この語を高く掲げ社会変革を志向する政党が登場し、急速に支持を拡大している現象がみられる。マレーシアの人民公正党（PKR）、インドネシアの福祉正義党（PKS）の活動がそれである。つまり、“アディル”は現代の国民国家において、社会的秩序の形成に作用する重要概念として意識されているのである。したがって、“アディル”に注目することは、近世から現代に至る東南アジアのイスラーム教圏の歴史的展開、地域・国家の政治文化の相違などのテーマに対するひじょうに有効なアプローチ方法である。

この試論集は、京都大学地域研究統合情報センターの公募研究（「公共領域としての地域研究の可能性――東南アジア海域世界における福祉の展開を事例として」、2008～2009年度、研究代表者：西尾寛治）によって組織された共同研究会が出発点となっている。共同研究会で議論を重ねるうちに、アラビア語起源のマレー語“アディル”（adil：公正、正義）をテーマとして共同研究を展開することが提案された。

この共同研究がある程度進んだ段階で、2008年度の日本マレーシア研究会（JAMS）第17回研究大会（12月６、７日、獨協大学）において、以下のようなシンポジウムを行い、マレーシアおよびインドネシアの研究者から研究内容への意見を伺う機会とした。

■テーマ「“アディル”をとおしてみたマレーシア、インドネシアの社会」
- 趣旨説明：西尾寛治（防衛大学校）
- 司会：山本博之（京都大学）
- 報告１「中東社会における公正（アドル）概念」新井和広（慶應義塾大学）
- 報告２「近世のマレー世界における公正（アディル）概念」西尾寛治（防衛大学校）
- 報告３「マレーシアにおける『公正』を支える論理的根拠の変遷」
  篠崎香織（在マレーシア日本国大使館専門調査員）
- 報告４「インドネシアの福祉正義党（PKS）による『正義』の実践」見市建（岩手県立大学）
- コメント１：弘末雅士（立教大学）
- コメント２：井口由布（立命館アジア太平洋大学）

このシンポジウムは、西アジアと東南アジアのイスラーム圏の異同や、マレーシアとインドネシアの政治文化の相違について理解を深めるよい契機となった。アディルを通して東南アジア社会をみることの有効性について確信を深めたわれわれは、2009年には、東南アジア学会第81回研究大会（６月６、７日、京都大学）において、以下のようなパネル発表を実施した。

■テーマ「マレー世界におけるアディル（公正／正義）概念の展開」
- 趣旨説明：西尾寛治（防衛大学校）
- 司会：井口由布（立命館アジア太平洋大学）
- 報告１「17-19世紀のマレー諸国と“アディル”概念」西尾寛治（防衛大学校）
- 報告２「オランダ領東インド・ジャワの抵抗運動におけるアディル」菅原由美（天理大学）
- 報告３「マレーシアにおける『公正』をめぐる場とことば；政党政治の展開を中心に」
  篠崎香織（北九州市立大学）
- 報告４「インドネシア、４度目の『正義』の時代：イスラーム主義政党の均衡と現実主義の政治」
  岡本正明（京都大学）
- コメント１：弘末雅士（立教大学）
- コメント２：宮脇聡史（東京基督教大学）
- コメント３：西芳実（東京大学）

新たな報告者やコメンテーターを加えて開催したこのパネルは、近代におけるアディル概念の再構築の可能性、マレーシア・インドネシア・フィリピンの３カ国間の政治文化の相違などについて理解を深める機会をわれわれに与えてくれた。

この試論集は、アディルに関する研究会のメンバー６名の研究成果を収録したものである。もっとも、研究に着手して２年に満たない時点で編集したため、成熟途上のものが多い。試論集とよぶゆえんである。論文のタイトルが示すように、それぞれのメンバーの研究テーマは異なる。だが、少なくともアディル（公正／正義）に関する上記の理解はメンバーに共有されている。

試論段階で研究をまとめてみたことで、今後の研究の発展にどのような面が必要とされるかという問題も見えてきたように思う。今後は、そうした点を充実させることにより、研究のさらなる発展を期したい。

なお、われわれに研究成果公表の場を提供していただいた日本マレーシア研究会、東南アジア学会ならびに京都大学地域研究統合情報センターの皆様へ感謝を捧げてこの序文の結びとしたい。